ふかまちのまど
第七四号　二〇〇〇年六月一日
発行元　深町　町内会連合会
連絡所　☎六三―三八七

PTA会長時の思い出（7）

向井　和行

三人の子どもがお世話になった深小学校で、末の娘が五年生の時、PTAの世話役の依頼がありました。

それまで家内にほとんど任せていたPTAの活動、何もわかからないままに受けさせていただきましたが、そんな私を役員の方、先生方に手取り足とりでご指導くださり、盛り上げていただき、楽しくお世話ができました。

深小学校役員会、市P連、県P連、日P連の会合と、多くの方々との出会いがありました。PTAの諸活動を通じて、多くの事を学ばせていただきました。

又、町内の方々のご協力にはほんとうに感謝申し上げます。多くの学校行事、子ども会等で支えていただきました。

深小を卒業し、親となり三人の子どもがお世話になった事に、少しなりとも恩返しできれば、との思いでの二年間でした。

当時の市P連の会長さんの口ぐせで、「楽しいPTA活動、役員が楽しくなければPTAも楽しくならない」と言われて、市P連の役員としても加えていただいた時、楽しく過ごさせていただきました。

私も少しでも楽しいPTA活動となるように心がけておりましたが、ミスも多く役員の方、先生方にご迷惑をおかけした事もありました。しかし、落ち込む事もなく楽しくさせていただいたのは、子どもたちの明るく元気な姿を見て、気持ちの切替えをさせていただいた様に思います。

深町の自然の中で、これからもすくすくと子ども達が成長するよう願っています。

今後も深小学校PTAが、楽しく、明るく活動され、学校と地域、子どもと大人の一つの接点として、更に活躍されますようお祈り申し上げます。

十六代（平成四年～五年）会長

「近東伊太利航路」の思い出（7）

秋本　俊之

「ローマは一日にして成らず」と言われているだけあって、伊太利にはとりわけ歴史的・宗教的に有名な文化遺産が多く、ヨロッパで群を抜いている、と言っても過言ではないと思われます。国としては裕福な国ではないようで、又、国民も勤勉な国ではない様です。

例えば、普通の勤め人でも十一時頃には、昼食のため家に帰り、食事が済んで一時間くらい昼寝をしてまた、勤務先に戻り夕方は四時ごろに帰宅する様な勤務振りだと聞いて居ります。

街でも車は路肩に駐車して居りますが、どの車もオンボロ車が多く、窓は紙を張りつけた車が多く、走りだすと今にも解体するのではないかと思われる程がたく車が多いのには驚きました。又、交差点でも信号は無く、あちこちではぶっけて喧嘩をしている光景を見かけました。そして、双方が理屈を言い合って勝ち負けを決め別れるのだと言って居りました。

中近東や欧州では、宗教戦争や民族戦争が多く、欧州の火薬庫だと言はれて居りました。

ローマにある有名な観光施設である「コロッセオ」の遺跡の様に、アフリカから連れてきた黒人と、食に飢えさせた猛獣（ライオン・トラ）を決闘させ、それを観光席で見物した闘技場の跡がありますが、彼らには徹底した黒人差別の思想が残って居る様に思いました。従って、人種に依る搾取政策、即ち弱肉強食の思想が、今に残っている様な感をうけました。

欧州の先進国は競ってアジア方面、アフリカ方面、東南アジア方面南半球へ沢山の植民地を所有し、それから搾取した政策を最近まで実行して来たのだと思います。

最近は、それらの後進国が次々と独立宣言し、現在では属国と呼ばれる後進国は殆ど無いと思われます。

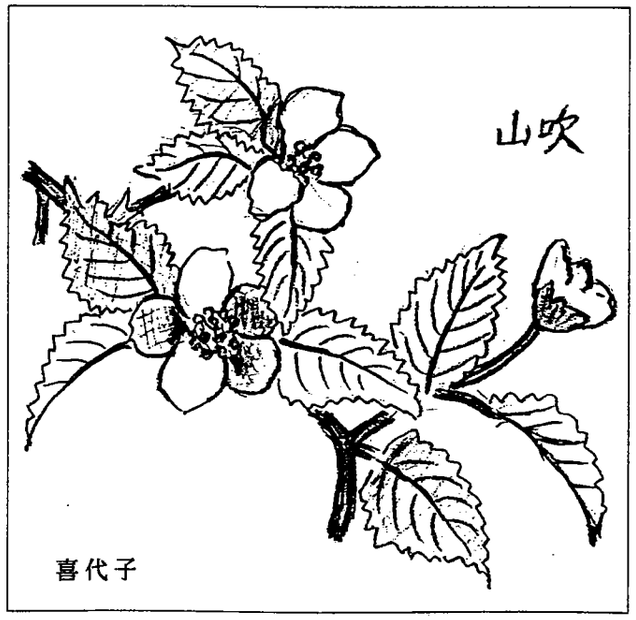
又、ローマには「ウアチカン市国」が現存し、街の一区画に人口二千人位で一国を形成しており、その宗教的、芸術的存在価値は、世界の最たるものと思われます。

宮殿前の円形広場の城壁の上には高さ四・五米の大理石の彫刻が百体位並び、その荘厳さには観光客が目を見張り圧倒されるものがあります。

今はローマ法王の居城として、又、キリスト教の中心地であり、魅力ある恍惚郷であります。

又、ローマより少し南に下ると、紀元七九年にウエスピオ火山の大噴火によって、ポンペイの街が埋没し、それらを発掘して、現在は観光地となって居ます。発掘された家屋の跡、市街地の公衆浴場、水道施設、人の骨、調度品、神殿跡、市場跡、倉庫等があり、強く印象に残って居ります。

▲▲



勝ちました・頑張りました

深町子ども会

五月二十八日、三原市東部子ども会主催の球技大会（ソフトボール・キックボール）が第一中学校と糸崎小学校の二会場で行なわれました。

深小学校ソフトボールチームは優勝、キックボールは三位でした。休校日、放課後練習しています。応援してください。

田植えは楽しいぞ

五月二十九日（月）五年生と二年生が西本さんの田んぼで田植えをさせていただきました。今までは全校で田うえをしておりましたが、今年度より二年と五年が実施し、それを総合的な学習に発展していくように考えております。西本さんや西永さんに田植えの仕方を教えてもらい、田んぼに入りました。

「キャー冷たい。」

「ウワー沈んじゃうよ。」と歓声をあげながら苗を植えました。さすが五年生はうまいものです。二年生に植え方のコツを教えながらどんどん植えていきました。

あと西本さんや西永さんから米作りのことや苦労など話していただきました。体験を通して米作りの大変さや工夫を学習していければと思っています。

今後とも地域の方々の知恵や工夫を教えていただき、深町のよさを学習していきたいと思います

深小学校

展望席

涙が出て仕方なかった。小学校一年生優希ちゃんが、県警捜査員に抱き抱えられ、「人質」から開放された瞬間の映像を見た時である。殺人を含め数人の犠牲者が出たことにやるせなさは残った：が。▼例の神戸少年首切り殺人事件の頃から、少年犯罪が避けて通れぬ大きな社会問題として、マスコミを中心に「何故」が走った。第二次世界戦争以前に生を受けた我々の子どもの頃には、悪いことをすれば「バチ」が当る、といって自制心理が働いた。遊び友達も「そんぎゃあな事をしたらバチが当たるでえ！」と、自省を促したものである。▼今は、少年と話す機会はほとんどないが、反社会的行為にどれ程の自制心が働いているのだろうか。犯した事件の結果に、少年であるが故の免責を知って犯行に及んだという記事を見せられると、その知識の広さ、深さにうなされる。▼勿論、少年犯罪の原因を少年だけに覆い被せてすむ問題ではない。「大人社会の延長である」、と私の関係する会合で女性の方から意見が出た。中之町の河野さんは、Fだより六月号で、「苗半」と言って高い収穫を得るには苗作りが大事だと書いて居られた。これを人間社会に例えば幼児・児童の年代であろうか。子どもは親の後姿を見て育つと言はれる。鷹は鳶の子ではない。

謹んでお悔み申し上げます

小川　廣光　九十三歳　四月三日

六月　町内各種団体行事予定

◆小学校（幼）

▼社会見学（四年）――一日
▼諸費・雑費集金（幼）―六日
▼体重測定（幼）――九日
▼体重測定（低）集金日――一二日
▼体重測定（高）貯金日――一三日
▼保健指導（幼）――一四日
▼広島交響楽団鑑賞（六年）――一五日
▼参観日――二〇日
ふれ合い交流事業みんなでよいとん（幼）――二〇日
▼プール開き――二三日
▼水泳教室――二八日
▼ビジビジハウス　おきんぼさんぽ――二九日
▼誕生会（カレー作り）幼――三〇日

◆女性会
▼親睦会　上――八日　中――一〇日　下――一二日

◆尚寿会
▼一泊旅行――一四・一五日

郷土誌発刊について

深町町内会連合会会長　高崎　出旭

三原市合併五十周年を記念して企画された新修深郷土誌は、編集に五年を費やして完成しました。

幸いにして深町には、三原市との合併時に作られた「深郷土誌」があります。

役場や村内にあった史料や伝説が、合併によって処分されたり、散逸や、滅没するのを憂慮された先輩方のご努力によって刊行された貴重な史料で、これをベースに合併後の歩みや、新たな観点から発掘した史料を素材にして編集したのが今回の郷土誌であります。

郷土誌は、地域の風土を知り、歴史や文化を知り、未来を探る糧となるものであります。また、郷土への愛着と誇りをもつ源泉でもあります。

私たちは、先人が残された歴史を貴重な教訓とし、新しく迎える二十一世紀を展望し、更に充実した生活や町づくりに生かして行きたいと思います。

郷土史発刊に当り、長期に亘り編集にご尽力いただいた関係各位、並びに五理解とご協力をたまわりました町民各位に対して、深く感謝の意を表します。

尚、発刊はお盆の予定です。ご購読をよろしくお願い申し上げます。古里を離れておられる方へも是非一冊お送りください。

▲▲

深の歴史余話

地頭職石原氏のその後

高崎　壽郎

かって深の歴史で、「関ケ原の合戦に破れた毛利氏は防長二国に転封され、木頃庄地頭職石原氏もこれに随伴した」と書いたが、事実ではなかったようである。

石原氏のルーツはその鎌倉の源譜代の御家人であった山内首藤氏である。

山内首藤氏は、相模の国山内庄を本貫地とし、地　庄（高野町、比和町、庄原市北西部など旧恵蘇郡の全域を庄域とする）を中心に勢力を拡大していた。

特に十五世紀の終わり頃には、安芸の毛利と共に備後の山内として、国人衆の筆頭になっていた。

石原氏はその一族であり、木頃庄地頭職になる前は、備後国三　郡石原村（現三次市石原町）に居住していた。

石原氏と深村との関係は「備後国御調郡木頃庄地頭職所補任石原右衛門頼元也者早可致沙汰之状如件　応安二年（一三六九）酉三月十五日」のように、三代将軍足利義満より木頃庄地頭職をもらったことに始まる。禄高は一六〇九石だった。

それから約二百三十年後の天下分け目の関ケ原の戦（一六〇〇）は、石原氏の運命を大きく変えるのである。

石原太郎左衛門景信は、初め小早川隆景（一五三三～一五九七）に仕えて、四国、九州から小田原攻次いで、文禄の役に従ったが、隆景の死後は養嗣子であった小早川秀秋（一五八二～一六〇二）に仕えた。

秀秋は、年若くして朝鮮侵攻の慶長の役には総大将として参戦。秀吉の死後、関ケ原の陣で東軍に寝返り、その功によって徳川家康から備前、備中、美作四九万石をもらい太守として入部した。

景信が秀秋に従い岡山城に入る前は、秀明と共に筑前名島（現福岡市）にいた。隆景が以前九州攻めにの功により、秀吉から筑前名島をもらいそこを本拠地としたからである。秀吉は、毛利氏特に一族の小早川隆景の力を恐れ、毛利の勢力を中国と九州に二分したともいわれている。

ところが、それから二年の後、中納言秀秋は変死でこの世を去り、藩は改易、景信は浪々の身となった。

▲▲

二中に「スクールカウンセラー」配置

二中便りから（要約）

昨年七月、中之町（下）地区懇談会の席で、カウンセラー配置の要望がでました。「現時点で、本校への配置はないが、将来的にはお願いしている」と答えました。

この度、文部省のスクールカウンセラー（臨床心理士）活用調査研究委託事業として、本校に一名の配置が決まりました。

配置の目的

スクールカウンセラーを活用することによって、児童生徒のいじめや不登校などの心理的問題。その他保護者や子育て保護者の支援、進路の悩みや、問題行動等、生活指導上の諸課題などに対する相談活動。

スクールカウンセラーとして、文教女子大教授　藤土圭二先生が決定。

以上が二中便り五月一六日の要旨です。配置期間は来年三月末まで。ご利用下さい。

ボクの集団疎開の思い出

（元）大阪市立海老江東国民学校
2ねん　ニシダカツヒコ

（その3）田舎の生活

山や川の真近での暮らしは初めてで、野苺を摘んだり、サクロの実が高い枝にぶらさがっているのを指をくわえて見上げていたっけ。

学校の前の川遊びでは、大がき泳ぎとハシゴくぐり、あのひやかい感触は今も覚えています。川魚（ドンコ）を手掴み、口で皮をむく、真黒に日焼けした田舎の子には可愛がられたり、一寸いじめられたり。

父兄代表で大阪から面会に来てくれたのは、保護者会長の市場の八百屋さん。その頃の家への手紙には、「お父さん、お母さん、お元気ですか、ボクはとても元気です。」ばかり出していたようだ。

（以下　次号へ）

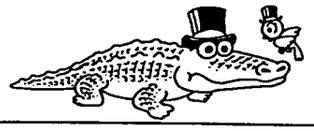
◎春　夏　秋　冬◎

梶谷マサヨ

六十年　妻と呼ばれし　幸せを
しみじみ思う　命日の日に

古きより　妻という字は　偉大なり
影と形に　沿う如くあり

亡き夫の　作る短歌を　見習いし
手は届かずも　などか楽しき



修学旅行に行ってきました

深小学校

五月十八日、十九日と六年生が京都大阪奈良へ修学旅行に行ってきました。それぞれ楽しい思い出を作ったようです。その思いを俳句に表現しましたのでご紹介します。

大阪は　デコトラの町　きれいだな　西本
金閣寺　本当の名前は　鹿苑寺　古川
二条城　うぐいすばりの　床だった　奨龍
奈良の町　五重の塔が光っている　西永
映画村　楽しいことがいっぱいだ　貴博
大仏の　手のひら、でかく　おどろいた　池田
法隆寺　五重の塔は　守り神　ゆかり
映画村　おみやげやさん　いっぱいだ　宮本
金閣寺　きんがきれいで　すごいな　翔太
東大寺　大仏でかく　おどろいた　岩野
奈良の町　暴走族が走っている　美穂
友だちの寝顔かわいい　奈良の宿　力武
大仏よ　フラッシュ届かぬ　大きさだ　美沙
奈良の朝　みんなで花札　大さわぎ　中嶋
綱掛　千順
迫　玉江
河原　玉置　裕也
河原　和哉　あゆみ
勇真　多来美
翔平

それぞれの子どもたちの驚いた様子や楽しげな様子が目に浮かぶようです。

（六年生作品）